

駿河湾を震源とする地震の東名高速被災応急復旧(現況報告)

1. はじめに

1) 2009年8月11日5時7分頃発生した駿河湾を震源とする地震により、東名高速道路牧之原SA近くの盛土のり面が崩壊し通行止となりましたが、15日24時をもって、この区間を含む地震の影響による通行止をすべて解除しました。平成21年8月26日定例記者会見報告済
【緊急報告】東名復旧までの115時間

2) 東名高速道路のり面崩壊原因として、地形、地震強度、降雨等の複数の要因が重なって発生したことが想定されることから、この原因を究明し、今後の当該箇所における盛土構造の強度向上を含め『本復旧対策工』を検討することを目的に外部有識者を迎えた検討会を設立しました。
【検討会】東名高速道路牧之原地区地震災害検討委員会
【第1回委員会】平成21年8月17日(現地にて検討会開催済み)

3) 今般、その後の現場状況(調査ボーリング等作業状況)と応急復旧工事への更なる強化対策の概況について報告させていただきます。なお、災害原因及び本復旧対策については、第2回検討委員会により検討していく予定です。
【第2回委員会】平成21年9月28日(月)開催
(場所:東京 霞ヶ関ビル 東海大学校友会館)



< 災害状況 >



< 応急復旧完了 >

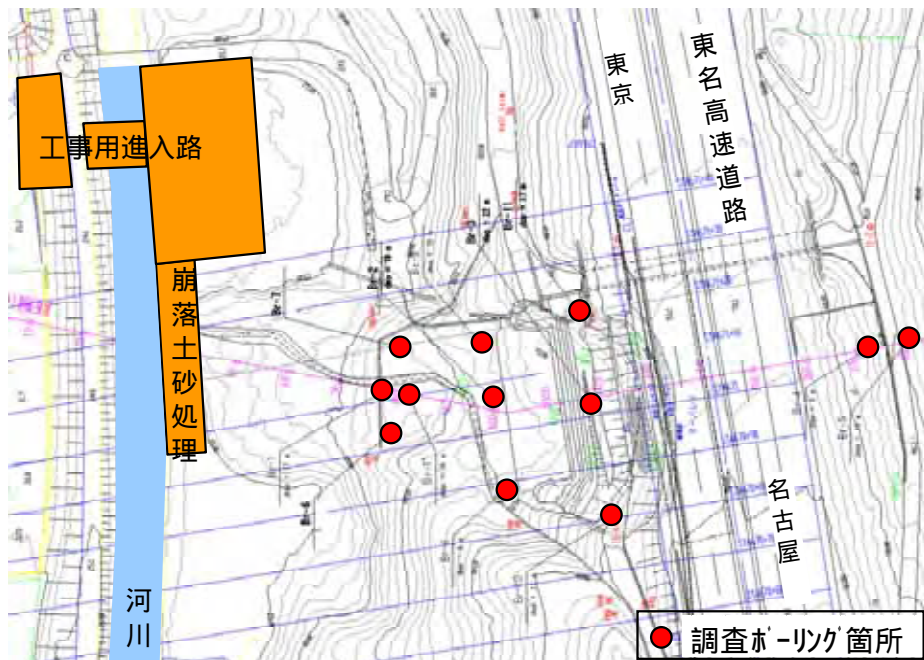
2. 現地状況と現在の作業状況

< 現地状況 >

応急復旧したのり面は、変位や路面クラックの発生もなく、現時点では安定した状態にある。

< 現在の作業状況 >

- 1) 盛土、基礎地盤の構成地質、地下水分布状況等の把握を目的とした調査ボーリングを実施済。調査結果について現在整理・分析作業中。
【調査箇所 12箇所完了（位置は下図参照）】



ボーリング作業状況

- 2) 応急復旧完了後、本復旧工事に備えて 一般道路からの工事用進入路整備、崩落土砂の河川近接部処理、排水施設等の整備を実施済み。



工事用進入路設置（河川部）



工事用進入路整備



崩落土砂処理（河川近接部）



排水施設整備

3) 盛土の追加補強対策 (検討会委員の意見)

今後の台風や秋雨前線による大雨も予想されるため、更なる斜面の安定性向上を図る目的で、検討会委員の意見もいただいて応急復旧工事への更なる強化対策を実施する。

< 追加補強対策 >

水平ボーリング【13本予定 うち6本完了】

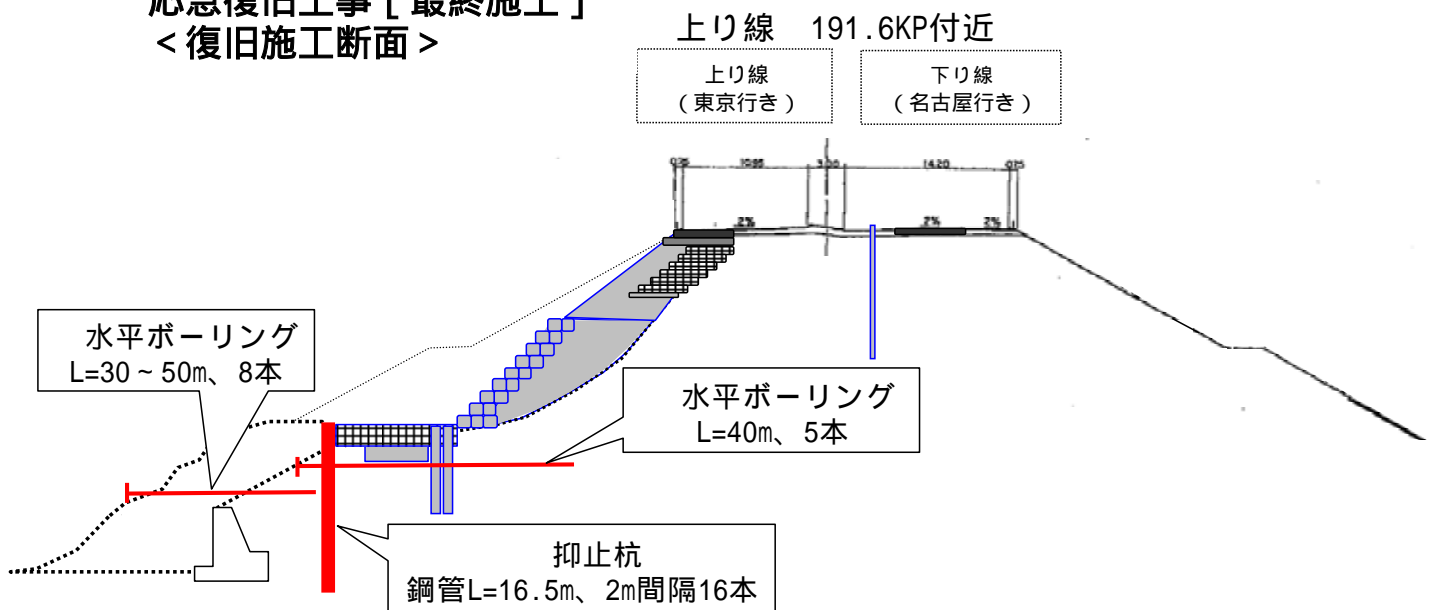
(目的：地下水位の低下)

抑止杭 (鋼管杭)【延長：最大16.5m、本数：16本予定】

(目的：すべりを抑止)

応急復旧工事 [最終施工]

< 復旧施工断面 >



水平ボーリング機械設置箇所整備



水平ボーリング機械設置

< 参考資料 > 東名高速道路牧之原地区地震災害検討委員会

1) 概要

東名高速道路 191.6km のり面崩落原因として、地形、地震強度、降雨等の複数の要因が重なって発生したことが想定されることから、この原因を究明し、今後の当該箇所における盛土構造の強度向上を含め「本復旧対策工」を検討することを目的に外部有識者を迎えた検討会を設立。

2) 主な検討内容

地形地質・周辺の震度・降雨状況から当該のり面崩落の原因分析
本復旧対策工の策定
条件が類似した盛土箇所の抽出とその対策工

3) 委員構成（敬称略）

	氏名	所属期間及び役職
委員長	太田 秀樹	中央大学 研究開発機構 教授
委員	安田 進	東京電機大学 理工学部 建設環境工学科 教授
〃	奥園 誠之	(社)地盤工学会名誉会員 (財)高速道路調査会 シニアフェロー
〃	三木 博史	(株)三木地盤環境工学研究所 所長
〃	松尾 修	(財)先端建設技術センター 常任参与兼研究第三部長
〃	佐々木 哲也	独立行政法人 土木研究所 材料地盤研究グループ 土質・振動チーム 上席研究員
〃	吉村 雅宏	(株)高速道路総合技術研究所 道路研究部 統括研究主幹

4) 検討会開催スケジュール及び内容

第1回委員会（8月17日現地検討会実施済み）

災害現場調査及び今後の調査等について

現地調査

災害状況、応急復旧工事

地形・地質及び調査ボーリング計画

第2回委員会（9月28日（月）開催）

災害原因及び本復旧対策検討

調査ボーリング結果

原因分析

本復旧対策工

第3回委員会（10月中旬～下旬頃）最終報告発表

災害原因及び本復旧対策工のまとめ

牧之原地区類似盛土箇所における対策工

以上